



第3回 五岳祭

〜限界突破〜

500	250	460	得点板
500	349	346	285

保護者感想 津草 友美

第三回「五岳祭」では、最初から最後まで生徒一人ひとりが頑張っていて、この日のために一生懸命に練習してきたのだと伝わってきました。

その中でも男子の組体操は、倒れても最後までやり遂げる姿に感動し、応援にも熱が入りました。勝敗も大切ですが、力を合わせ一つになった生徒たちは輝いており、その出来栄はとて見応えがありました。

また、女子生徒による棒引きは、引きあいになる前に素早く陣地に持って帰る子がいたり、一本の棒に十人を超える生徒で引きあつたり棒を離さない根性を見せてくれました。その後の女子のダンスでは、棒引きとは違う生徒たちの可愛らしさや美しさを見る事ができました。

応援席からも、温かい拍手や声援でこの五岳祭が一つになるのを感じました。自分の子どもが阿蘇中央高校の生徒でよかったと心から思えます。先生方の熱心な指導や生徒たちの頑張り、素晴らしい五岳祭を見る事ができました。ありがとうございました。

体育委員長 普通科三年 富田 大貴

私にとって今回の五岳祭は高校生活三年間の中で、とても印象深いものとなりました。体育祭実行委員長として、この五岳祭を成功し、生徒一人ひとりの心に残るようなするという責任感がとてもプレッシャーになりました。全校生徒を前に話をしたりする機会はめったになく、初めは緊張してうまく話せなかったけど、繰り返しつれづれうまく話せるようになりました。いろいろ印象に残っている中で特に印象に残ったのは、マ스ゲームの指揮者として全校生徒が私の右手一本でドラミッドやタワーを作っているのがとても怖かったです。タイミング悪く挙げれば、曲と演技がずれてしまい、生徒一人ひとりの頑張りを見失ってしまうと思いました。本番では練習の成果もあり、今までで一番の演技ができたので終わった後はホッとしました。

今回の五岳祭では、大きな役をたくさん引き受けて、とても充実し、人として多くのことを学び、そして成長できたと思うし、私の長所と短所を見つけていることが出来ました。今回のこの経験や体験は私にとって大きなものとなりました。これからの取り組みに活かしていきたいです。